独立行政法人 地域医療機能推進機構 相模野病院 地域連携情報誌

JCHO

地域と共に

2020年４月号（春季号）
Vol.82

■ 新院長 就任のご挨拶
■ 新副院長 ご挨拶
■ 診療科紹介　第 10 回　眼科
■ 医療従事者向け接遇研修
■ 優秀演題賞を受賞
■ NCPR 講習
■ 春の市民公開講座開催のお知らせ

基本方針

1．患者第一主義　常に診療を受ける皆様の立場で考え誠実に行動します。
2．安全確保　すべての診療現場で患者の皆様が安心できる環境を作り、安全で質の高い医療を提供します。
3．社会貢献　良質な医療提供を基本として積極的に社会に貢献をします。
4．公正で透明性のある病院　高い倫理観に基づき様々な情報を開示します。
5．働きがいのある職場作り　創造性、主体性を尊重しあい自由で働きやすい職場を実現します。

FS522898　ISO9001:2015

http://www.sagaminojcho.go.Jp

Security
優れた安全対策で皆様を守ります。

Speed
すべてに迅速な対応を心がけます。

Service
先進の医療を快適に提供します。

Sympathy
患者の皆様と思いを共有します。

就任のご挨拶

院長　今泉　弘

この度、JCHO相模野病院の病院長を拝命した今泉　弘です。

当院は病院基本方針として1. 患者第一主義　2. 安全確保　3. 社会貢献　4. 公正で透明性のある病院　5. 働きがいのある環境作りの5つを掲げています。

これからも、「地域と共に」これらの基本方針に従い全職員で病院運営を継続していきます。当院は“病院”と“健康管理センター”を両輪とし展開してきました。“病院”では外来機能と212床の病棟診療を中心とし主に急性期医療を担ってきました。“健康管理センター”は疾病予防と早期発見を目的として健診、ドック業務を行ってきました。今後もこの両輪で地域に貢献していきたいと考えています。

しかしその一方、私共が対峙すべき難問は数え切れません。新型コロナウィルス感染症対策、2025年問題に代表される高齢者社会到来、働き方改革、地域医療構想などの問題が山積しています。また科学としての医学の進歩は目覚ましいものがあり、ゲノム診療を中心とした個別化医療やAIの導入などは未来の医療ではなくon　goingの診療です。地域に根ざした中規模病院であるJCHO相模野病院にはこれらの課題を解決しながら安全かつ高度な医療を提供する義務があります。さらに５年後、10年後の医療にも対応できるように今から準備していく必要があります。そのためには近隣の大学病院、病院協会、医師会、歯科医師会、薬剤師会、市政に携わる皆様などからご指導をいただきながら、全職員が一丸となって努力していきたいと考えています。また、地域住民の皆様からのご意見やご指摘を病院運営改善に遅滞なく反映できる体制づくりを実現したいと思っております。

地域医療のアンメットニーズに応えられる病院として成長できるよう全職員が研鑽をかさねていく所存です。これからも皆様からのご支援を賜りますようお願い申し上げます。

副院長　林　京子

皆さん、こんにちは。ご覧いただきありがとうございます。乳腺外科の林京子です。

2020年4月1日より副院長を命じられました。

2年前に「医療安全をやってみないか」とお誘いをうけました。医療安全とはなんぞ？医療安全を他人事に感じていました。ところがどっこい、とても重要なことで、一度の医療ミスが今までの努力が「0」になるといっても過言ではありません。医療安全研修をうけ、衝撃をうけました。

「安全は存在しない」「医療事故は必ず起こる」「私たちにはそのリスクの高さを下げることができる」

この対策は、やめる、なくす、できないようにする、わかりやすくする、安全を優先させる、できるだけ能力をもつ（勉強する）、自分で気づかせる、検出する、備える（準備・予習する）などです。

実際、私は専門知識の向上、丁寧なインフォームドコンセント、予想と予習、毎年の学会参加や発表、日常の挨拶とコミュニケーションを心掛けています。これらは医療安全に直結していると感じています。

私のミッションはリスクの高さを下げるために、① 医療安全を職員ひとりひとりに医療安全手帳にあるルールがあること　② ルールから逸脱すると病院は職員を守れません　③ 医療安全を浸透していくようにシェアしていく　ことだと思っています。

JCHO相模野病院は、全職員で医療安全の文化を醸成し地域医療に貢献します。

今後とも宜しくお願いいたします。

眼　科

眼科部長　春日井　紘子

診療科紹介
第10回

現在、相模野病院眼科は、常勤医師2名、非常勤医師数名、視能訓練士2名、看護師、事務員スタッフで協力して診療しています。

手術日は火曜午前と木曜午後で、主に白内障手術（2泊3日入院）や翼状片手術（日帰り）を行っています。白内障手術に関しては入院のみの対応ではありますが、症例によっては両眼同日手術も行うことも可能です。現在手術予約が混雑しているため手術までお待ち頂く期間が大変長く、患者さんや紹介頂いた近隣の先生方には申し訳なく感じておりますが、できる限り安全で円滑な手術治療を行って参りたいと思っております。

外来診療は、午前は初診再診外来、午後は予約制で外来・検査・処置を行っています。また、数ヶ月に1度ではありますが、北里大学病院眼科の庄司信行教授による緑内障専門外来診療を完全予約制にて行っています。

また当院にはNICU（新生児集中治療室）/GCU（回復治療室）がありますが、そこでの未熟児網膜症診療は、北里大学病院で同診療を行っている非常勤医師が担当しており、必要時には北里大学病院との連携を密にとっています。

さらに当院の健康管理センターにおいて、眼科検査は視能訓練士が担当し、判定業務には当科医師も協力させて頂いています。

今後も、病院間、スタッフ間、そして患者さんとのコミュニケーションを大切にし、地域のニーズに応えられる安全で満足度の高い医療を提供できるよう努めてまいりたいと考えております。

医療従事者向け接遇研修を行いました

2月1日、昨年に引き続き株式会社ハートセラピーの柳原里枝子様を講師にお招きして、医療従事者向けの接遇研修を行いました。「地域で患者さんに選ばれる」「職員から選ばれる病院づくり」をねらいに、心理学的な視点からの患者さんやご家族の心理状態、相手が安心できる関わり方や話したくなる聞き方について、座学とロールプレイを交えて学びました。

研修の成果を最大限に活かし、患者さんやご家族に安心感を持ってもらえるような関わりを心掛けてまいります。

優秀演題賞を受賞しました

周産期母子医療センター助産師の星身和子さんと長谷川悦子さん両名が1年かけて行った看護研究を昨年、第32回神奈川県母性衛生学会で発表いたしました。

看護研究のテーマは　「産婦の出産満足度と産後の育児肯定感との関連　～分娩から産褥期のよりよいケアについての考察」です。そしてこの研究が優秀演題賞を受賞しました。

最近は核家族化が進み、産後の支援が得られにくい環境にあります。慣れない育児で相談できる相手もなく、育児がつらいと感じ心身に変調をきたす方も多いようです。病棟で働いていると、退院後のお母さんたちと関われる機会は母乳外来とベビーマッサージの時だけだそうですが、そんな中入院の期間に育児を楽しくできるようどんな関わりをしたらいいのだろうと思ったことが研究の動機になったそうです。

そして、学会誌に論文投稿し掲載も決定しました。

地域の周産期を支えていく力となる素晴らしい研究でした。

NCPR講習を行いました

相模野病院では、地域周産期母子医療センターとして産科・NICU・GCUを有しています。新生児蘇生法（NCPR）は新生児医療には不可欠のスキルであり、スタッフ全員がNCPRスキルの獲得を目指しています。

日本周産期・新生児学会認定のNCPRインストラクターの資格を持つ小児科横関祐一郎医師を中心に同インストラクターのNICU　鈴木楓副看護師長でNCPR講習を実施しました。実践さながらのトレーニングにスタッフの目も真剣です。

講師をはじめ、参加者全員お休みを利用して受講し、自己研鑽に努めています。

次回市民公開講座のご案内

～　いつまでも「見える」ために　～

相模野病院　眼科　春日井　紘子　医師

新型コロナウイルス感染拡大のため、現在開催日は未定となっています

開催日が決まり次第ご案内いたします

次回もたくさんの皆様のご来場をお待ちしております

独立行政法人　地域医療機能推進機構
相模野病院
〒252-0206　神奈川県相模原市中央区淵野辺1−2−30
TEL:042−752−2025(代)　FAX:042−754−9543(代)
発行責任者：今泉　弘　　企画・製作：広報誌作成委員会